

新古今和歌集

しんきんわかしゅう

新古今和歌集は鎌倉時代の初期、元久2（1205）年げんきゆうに編纂された勅撰和歌集です。後鳥羽上皇の強い指導力のもと、藤原定家・寂廉ふじわらのさだいえなどが撰者として撰集にあたりました。全体でおよそ2千首あり、四季の歌と恋の歌が大きな柱となつています。ここでは、秋の歌のうち、「三夕の歌」として名高い歌を音読します。

じやくれんほうし
寂蓮法師

さび
寂しさはその色いろとしもなかりけり
榎立まきたつ山やまの

あき ゆうぐれ
秋の夕暮

さいぎほうし
西行法師

こころ み
心なき身にもあはれは知られけり
鴨立しぎたつ沢さわの

あき ゆうぐれ
秋の夕暮

ふじわらのさだいえ
藤原定家

見^みわたせば花^{はな}も紅葉^{もみじ}もなかりけり浦^{うら}の^{とまや}苦屋^{くや}の

あき ゆうぐれ
秋の夕暮

【参考資料】

- ・『新編日本古典文学全集43（新古今和歌集）』（小学館）
- ・『日本の古典を読む5（古今和歌集・新古今和歌集）』（小学館）